

みちぎわ いま かみ いの 途窮まれど未だ神に禱らず

ちょうど1年前、「人間は、いったい何をしているのか」とまるで自分の死期を悟っていたかのように叫んだ故・前長崎市長の最後の平和宣言を紹介しました。そして奇しくもその言葉とは対照的な「原爆を落とされて長崎は無数の人が悲惨な目にあったが、あれで戦争が終わったのだからしょうがない」という旨の発言をした防衛大臣が辞任に追い込まれたのも、ほぼ同じ時でした。

あれから1年…たくさんの「しょうがない」にまつわるつらい出来事があったように思います。日本の平和や地域経済を支えるものとして「しょうがない」存在とされる在日米軍兵士による女性への相次ぐ暴行事件、「日本が国際競争で生き残るためにはしょうがない」という論調の中で増え続けるリストラ・就職難 → ワーキングプア → ネットカフェ難民 → ホームレスという道をたどる人々。そうした貧困層の増加を背景に増え続ける自殺、児童虐待、女性やお年寄りを標的にした殺人などの犯罪…まさに「弱肉強食」の世界が私たち人間社会にも容赦なく繰り広げられ始めた感があります。そして「あなたの守護霊は…」「あなたの前世は…」などという「スピリチュアルもの」の流行は、そうした社会の不安や恐怖と向きあって状況を打開していく術を見出せずにいる人々の心を表しているように見えます。それはまた、小郡市民の4人に1人が結婚の時に相手やその家族が同和地区出身者かどうか調べることにについて「好ましいことではないが、今の世の中では仕方がない」と答え、同時に県平均の5倍近くの割合の人が「大安を選んで結婚式を挙げることはおかしいこととは思わない」と答えた同和问题市民意識調査の結果を思い起こさせます。

「途窮まれど未だ神に禱らず」とは、明治の偉人として小学校の社会科の教科書にも登場する幸徳秋水の言葉です。幸徳はジャーナリストとして人権や平和の尊さを訴え、また足尾銅山鉍毒事件では明治天皇に田中正造が直訴したときにその直訴状を合作しました。先の言葉は「どんなに苦しい状況になっても神だのみはしない」という意味です。今日の前にある問題はどれも簡単には解決しないことかもしれません。しかし、一人ひとりが粘り強く知恵をしぼった言動でつながっていけば、身近なものから解決し、「人権のまち」が実現していくのではないのでしょうか。

(文：有田)



幸徳秋水

～ 夢をかなえる ～ (高校奨学金制度の成果)

— 高校進学がかなう —

入学式当日の早朝、入学予定者のAさんから、入学を辞退したいという電話が高校にかかってきました。理由を尋ねると、お母さんが交通事故を起こされたために、入学時に納めなければならないお金を用意できないからということでした。

高校では出身中学校にすぐに連絡して、中学校の担任と一緒に家庭訪問を行いました。そして入学したいという意思を確認するとともに、就学のために様々な支援ができることを話し、翌日学校に来るよう伝えました。さらに制服を購入していないことがわかったので、卒業生が寄贈した制服を持って職員が午後もう一度家庭訪問を行いました。

翌日、校長室でAさんのための入学式が行われました。今、Aさんは奨学金を利用しながら元気に学校に通っています。

これは市内の高校での昨年度の事例です。入学式当日に入学を辞退しなければならなくなったという切羽詰った状況に高校側が適切に対処したこと、そして何よりも高校に進学したい、させたいという本人と家族の強い願いによって進学断念という事態を避けることができました。今年度他県では、マスコミでも報道されたように、入学金が未納のために入学式に参加できなかった例がありましたが、ここでは金額的には十分ではないものの、奨学金制度があるということで進学の道を閉ざすことなく、夢をかなえることができたのです。

— 奨学金制度で進学がかなう —

昨年12月、「OH! REC 7号」で高校奨学金制度について紹介しました。その後、記事を読まれた方が人権センターを訪れました。お話を伺うと、高校進学を控えた子どもさんがおられるのですが、数ヶ月前にリストラで失業されてしまったとのこと。そのためこのままでは進学させられないので奨学金制度を活用できないだろうかという相談でした。

関係機関や関係者を通して福岡県教育委員会に問い合わせました。その結果、相談に来られた方と県の担当者とは直接話し合う場を持つことができました。募集期間を過ぎていたため、残念ながら入学前の予約募集に入ることはできませんでしたが、しかし入学後の在学募集には該当することがわかり、入学後すぐに申請ができるよう書類をそろえ、早めの手続きをすることができました。



— 署名活動の拡大を —

今、高校進学は当然のことのようになっていきます。しかし三年の間にかかる費用は年々増加しています。そのため所得格差が広がる中、負担に耐えられず進学を断念・変更したり、中途退学を余儀なくさせられたりしている子どもたちが増えています。そしてそのことがさらに格差を生み、進学できない層が拡大するという悪循環を作っています。「部落差別の現実に学ぶ」ことを大切にしてきた同和教育や解放運動は早くからこの問題を指摘し、その改善に取り組んできました。その一つが奨学金制度の発展・拡充です。差別の悪循環を断ち切るために被差別部落の子どもたちを対象に始まった解放奨学金制度は、他の奨学金制度と一体化させ、今すべての子どもたちに広げられました。また成績条項をなくすなどの改善も進みました。しかしまだ十分とは言えません。小郡でも毎年行っている教育条件整備、奨学金制度改善・拡充の署名活動は、子どもたちの進路を保障するために私たちができる具体的な活動だと言えます。(文：古賀)

『ドライビング MISS デイジー』

今回は、情報室のビデオライブラリーから『ドライビングMiss デイジー』の紹介です。

舞台は 1948年～1973年、アメリカ南部のまだ人種差別意識が色濃く残る、黒人公民権運動最大の指導者マーティン・ルーサー・キング（牧師）の生地でも有名なジョージア州アトランタ。

夫に先立たれた72歳の裕福なユダヤ人デイジーは、一人かくしゃくと暮らしています。ある日、買い物に出かけようと車を動かした途端、運転を誤り車を壊してしまいました。綿工場を営んでいる息子ブリーは、そんな母親を心配して強引に60歳の黒人男性運転手ホークを雇います。自立心が強く、差別はしていないと言いながらも黒人に偏見を持つデイジー。はじめの数日間はホークの運転する車に乗ろうとせず、何かにつけホークを拒絶して困らせますが、温厚で誠実なホークはそんな彼女を上手にあしらいつつも温かく見守っています。

ある時、デイジーは彼が文字を読めないことを初めて知り、驚きます。彼は、人種差別により文字を奪われていたのです。早速、彼女は元教師の経験を活かしてホークに文字を教え始めます。そこには、純粹に学ぶことの喜びを感じているホークと、教えることに誇りと喜びをもつデイジーの姿がありました。この頃から、二人をめぐる様々な出来事を通して次第にお互い心を開くようになります。その後、二人の心の交流、数々の人種差別の実態、「老い」との葛藤などが描かれていきます。

出会いから25年の月日がたち、年若い

た彼女は施設で暮らすことになりました。ある時、ホークはブリーと一緒に彼女の見舞いに行きます。すっかり老いた彼女を見てホークは言います。「何とかやっていくのが人生ですな……」

この後に続くラストシーンは、慈愛に満ちた二人の表情が印象的です。

人種差別・老い・友情など決してテーマは軽くはありませんが、重すぎず、しかし心にしみ入るものがある作品です。日本でも上映され、その後、テレビでも放映されているとのことですので既に見た方もおられると思いますが、再度見てみると以前と感じ方が違うかもしれませんし、初めて見るにしても年齢や体験によっては捉え方が異なるかも知れません。この作品のテーマの一つである「老い」については特にそうではないかと思います。そういう意味では幅広い年齢層で鑑賞できるでしょうし、自分をホークやデイジーに置き換えることで彼らの思いに少しでも近づき、自分の生き方、考え方を問い直すよい機会になるかもしれません。ご覧になった感想・意見など寄せただけだったら嬉しいです。

(文：野瀬)



製作・監督／デビッド・ブラウン
ブルース・ベレスフォード
出演／ジェシカ・タディ
モーガン・フリーマン
ダン・エイクロイド

「人権のまちづくり」

本年4月より人権教育啓発センターに勤めることになりました。

勤めて間もない時期に、職員会議での冒頭、新人紹介の挨拶をすることになり、時間の関係もあるので「簡単に挨拶します」のところで、「手短かに挨拶します」と言ってしまいました。後で指摘され、仲間に嫌な思いをさせてしまったと後悔しています。



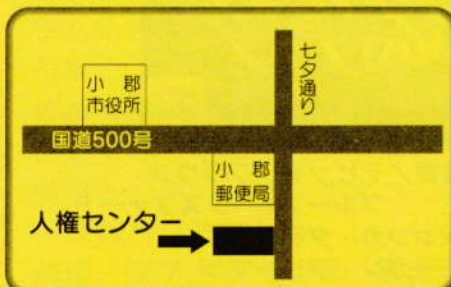
私たちの日々の暮らしの中で何気なく使う言葉の中にも、人を傷つけている言葉は沢山あることに気付かされました。使う人が差別の心を持って使わなくても、その言葉自体に差別する意味を含んでいることもあります。又、差別的な言葉でなくても、差別心を持って使えば、その言葉に差別する意味を帯びさせます。今回の件は、言葉や表現によって傷つく立場の人がいるのではないかと考えてみるいい機会になりました。

これを機に、更にあらゆる差別問題解消を目指し、一人ひとりが豊かに暮らせる、人権のまちづくりに取り組んでまいりたいと思います。 (文：井手)

投稿原稿募集!

これまで、“OH!REC.”を身近なものに!という気持ちで、市民のみなさんからいただいた人権に関わる情報を手がかりにしながら、センター職員が原稿をつくっています。

今後ますます“OH!REC.”を市民の皆さんとともに充実させていきたいと考えています。そこで、「人権」にまつわる原稿(出来事、考えたこと、疑問、“OH!REC.”を読んだ感想、その他についてA4一枚程度)を募集しています。原稿採用の判断は編集会議におまかせいただくこととなりますが、ふるってのご投稿をお待ちしています。



小郡市人権教育啓発センター

小郡市人権教育啓発センター

所在地：〒838-0141 小郡市小郡296
でんわ&Fax：0942-80-1080(直通)
E-mail：oh-rec@iwk.bbiq.jp
H.P. <http://www.city.ogori.fukuoka.jp/oh-rec/>